

## ◇2016年度実施の国内修学旅行の実態とまとめ(高等学校)〈抜粋〉◇

この調査は2016(平成28)年度に実施された高等学校の修学旅行に関するものである。  
 なお、調査は全国の国立・公立・私立等の高等学校を対象とし、下表の調査校を抽出し回答を依頼した。

設置者名	国立	公立	私立等	合計
全国校数	17	3,630	1,410	5,057
抽出校数	17	1,572	1,311	2,900
回答校数	8	579	368	955
回答率%	47.1	36.8	28.1	32.9

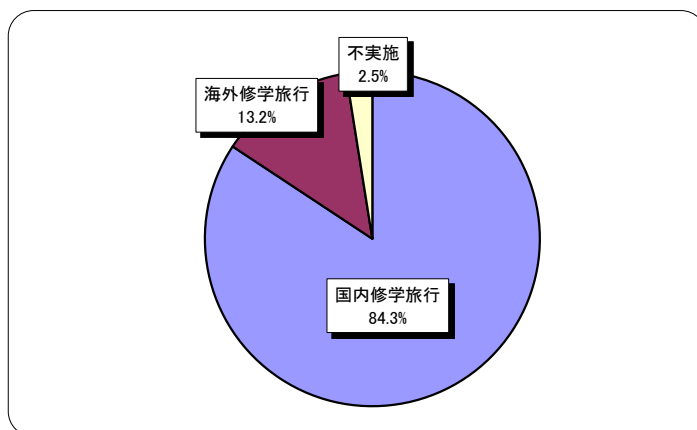
※ 回答率は、抽出校数に対する回答校数の割合

調査項目は次の通りである。

- (1)実施状況(2)不参加者の理由(3)実施時期(4)実施学年(5)保健指導のための引率者  
 (6)旅行日数(7)旅行費用(8)主な交通手段(9)旅行内容「活動、旅行先、見学先、行動形態、宿泊地等」  
 (10)班別自主行動(11)体験学習(12)防災(避難)訓練の取り組み(13)食物アレルギー対策

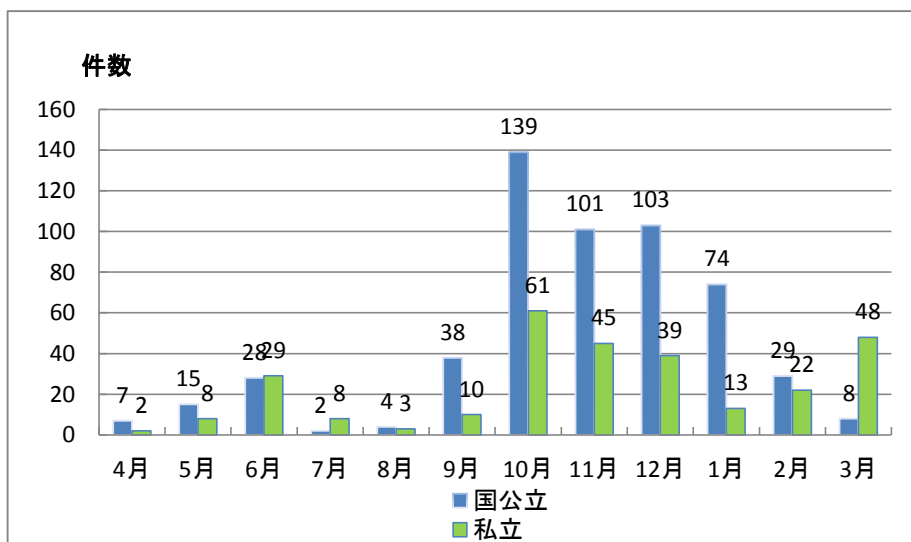
ここではその一部を抜粋して紹介する。なお詳細については「教育旅行年報データブック2017」をご覧ください。

### 1 修学旅行の実施状況



国内・海外を合わせた修学旅行の実施率は97.5%であり、前回(2015年度実施)の98.0%から比べると0.5%減少している。国内と海外の構成比で見ると、前回は国内が83.4%であったが今回は84.3%と0.9%増、海外が14.6%から13.2%と1.4%減となっている。

### 2 国内修学旅行の実施時期

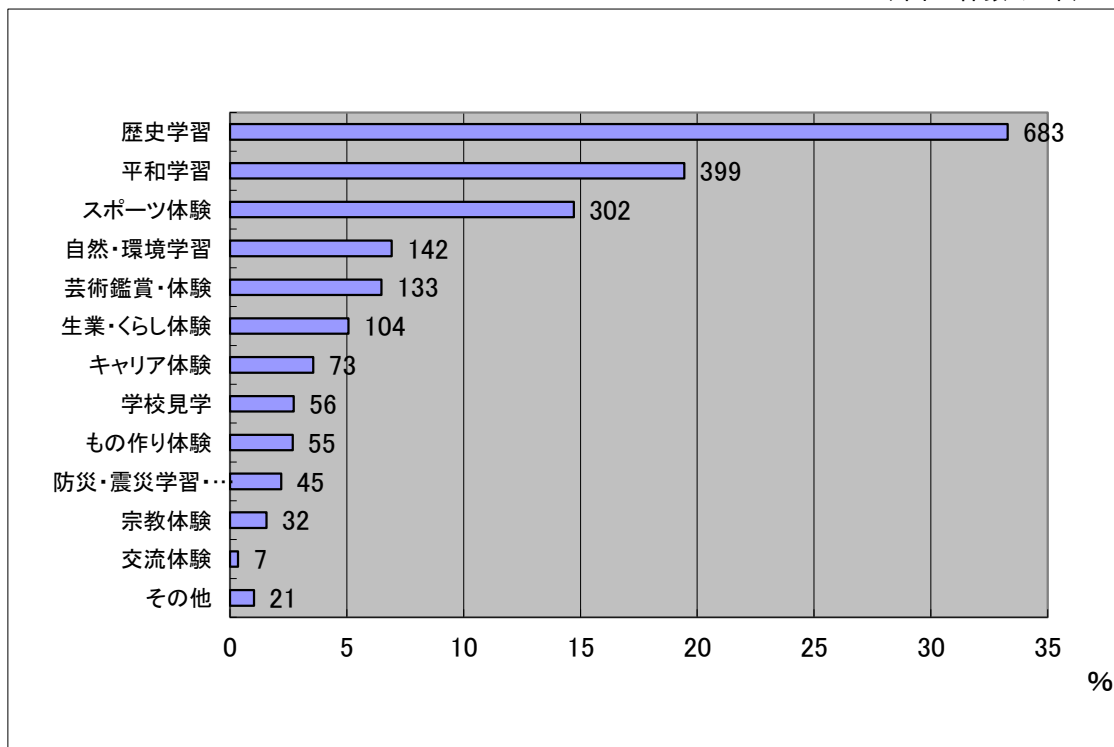


国内修学旅行の実施時期は、10月～12月に実施する学校が全体の58.4%を占めている。国公立校では10月～1月に集中しているが、私学校は10月～12月、3月、6月と分散している。この傾向は前回ともあまり変わらないが、今回6月実施がやや増加している。

### 3 分類別旅行内容

重点をおいた活動の分類別件数比

(単位: 件数/比率)



修学旅行で重点を置いた学習や体験を分類した分類別件数比率(グラフ-7)を見ると、「歴史学習」が683件(33.3%)で最も多く、次いで「平和学習」が399件(19.4%)、「スポーツ体験」が302件(14.7%)で、この3分類内容で全体の67.4%を占めている。その他様々な体験に重点を置いて実施していることが分かる。重点を置いた学習や体験の具体的な活動内容を3つまであげてもらったものが表-7である。これによると、1位「遺跡・史跡・文化財・寺社等の見学」2位「平和学習」が毎回圧倒的に多く、「伝統的町並みや建造物群保存地区の見学」「スキー(スノーボード)」「自然・野外活動体験」「マリンスポーツ」が上位にきているが、その他活動内容は多岐にわたっており、各学校が実態に応じて様々に重点を置いた活動を実施していることがうかがわれる。かつて重点をおいた活動であった「博物館等の見学」や「美術館等の見学」(2010年度はともに2位)が、ここ数年で大きく順位が下がっており、それに対して「いなか暮らし体験」「産業遺産の見学」や「ラフティング・カヌー体験」などが上位に上がってきている。「職場訪問・職場体験」「学校見学(大学・専門学校等)」等進路やキャリア教育に重点を置く学校も多くある。前回から「防災・震災学習」を項目にあげたが今回14位、43件であった。また、国内修学旅行の行き先に沖縄、北海道が多いことから「スキー」「自然・野外活動体験」「マリンスポーツ」「伝統文化・伝統芸能・祭体験」など、訪問地域の特性を生かした体験学習に重点を置く学校が多い。

#### 4 都道府県別 旅行先上位20

順位	旅行先	件数	構成比%
1 (1)	沖縄	273	15.2
2 (2)	東京	192	10.7
3 (3)	京都	181	10.1
4 (4)	大阪	169	9.4
5 (5)	千葉	160	8.9
6 (6)	奈良	115	6.4
7 (7)	北海道	102	5.7
8 (11)	兵庫	82	4.6
9 (12)	神奈川	70	3.9
9 (8)	長崎	70	3.9
11 (13)	広島	66	3.7
12 (9)	福岡	64	3.6
13 (10)	長野	52	2.9
14 (16)	佐賀	28	1.6
15 (17)	新潟	20	1.1
16 (25)	岡山	12	0.7
17 (15)	鹿児島	11	0.6
18 (17)	群馬	10	0.6
18 (23)	香川	10	0.6
20 (14)	熊本・宮城各9件	18	1.0
その他		88	4.9
合計		1,793	100.0

( )順位は前回の順位

※総件数は1,793件

※滞在時間に関係なく訪問した都道府県をカウントした。

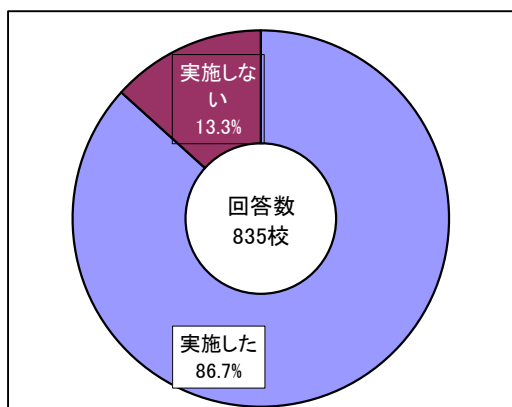
(旅行中、複数回滞在してもカウントは1とした)

カウント方法は、滞在時間に関係なく、例えば滞在が半日であっても、2日であっても、初日と3日目であっても行った旅行先を「1」としている。

都道府県別旅行先上位20を見ると、トップは前回に引き続き沖縄県で、2位東京都、3位京都府、そして大阪府、千葉県の順である。7位までの順位は3年間変わりが無い。沖縄県は平和学習やマリンスポーツ体験など、東京都は首都の観光・学習、京都府、奈良県は寺社などの歴史学習、大阪府、千葉県は人気のテーマパーク、北海道は自然体験の豊富な素材等が大きな要因であろうか。

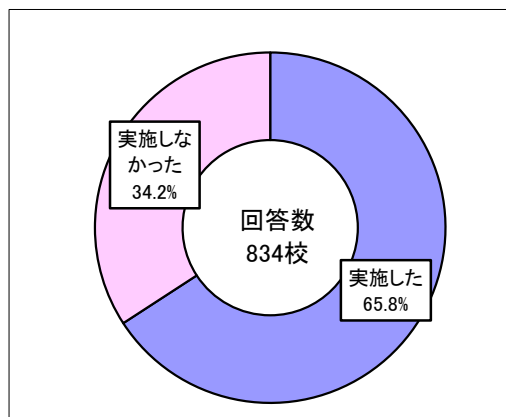
東北各県を見てみると、宮城県が9件で20位に入っており、その他は岩手県5件、福島県4件、青森県、山形県各1件、計20件で、前回(16件)より増加している。出発地は九州と近畿から各7件、関東から3件等である。今後も震災学習を含め東北への修学旅行が積極的に検討、実施されることを期待したい。

#### 5 班別自主行動実施率



班別自主行動の実施率は全体で86.7%と非常に高く、前回(83.6%)、前々回(82.7%)からみても、班別自主行動が修学旅行における一般的な行動形態として定着してきているといえる。設置者別では国公立校が85.9%(前回82.6%、前々回82.2%)、私立校は88.2%(前回85.6%、前々回83.4%)で、ともに年々実施率が増加している。生徒の自主性を育むねらいとともに、携帯電話の活用も広範囲の班別活動を可能にしている。

#### 6 体験学習実施率



修学旅行で体験学習を実施した学校は全体で65.8%あり、前回の65.3%、前々回の57.6%から増加していて、今や国公立校、私立校ともに多くの学校で実施している。

体験学習の内容は「スポーツ体験」(46.8%)が前回(42.9%)同様最も多く、種目はマリンスポーツ、スキー(スノーボード)、カヌー、ラフティングなどを実施している。次いで「伝統工芸・物作り等(シーサー作り、陶芸等)」、「農山漁村体験(民泊体験)」、「料理・食材加工体験(伝統菓子作り等)」である。昨今、受け入れ側が積極的に体験学習プログラムを設定しており、内容も豊富である。